

STEP2 パラグラフ展開を論理的に読み解き、正しい順番に並び換える 15分

STEP1で学んだ、パラグラフ展開を把握する方法を利用して、**STEP2**では「パラグラフ整序問題」への取り組み方を学ぼう。ここで手がかりとなるのが、各パラグラフに含まれる「指示語」と「具体例」である。

指示語の内容、具体例とのつながりを手がかりにする

指示語の内容を正しくとらえたり、具体例が何を受けているものかを把握したりすることで、**パラグラフの前後のつながりを見抜く**ことができる。以下の原則を確認しておこう。

Point 指示語や具体例が受ける内容をとらえる

《3》指示語には this, that, these, those, it, such, so などがあり、基本的には前出の内容を受けている。指示語が出てきたら、まずはどの部分を受けるかを、文脈や単数・複数形的一致などから把握するようにする。指示語は大きく離れたところには現れないこともポイント。もしパラグラフの冒頭に指示語が出現したら、その前のパラグラフで述べられている内容を受けていると考えることができる。

《4》具体例は、筆者の主張などを読者によりわかりやすく伝えるために用いられる。具体例の前後には、それらをまとめる内容や、より一般的な表現が表れることが多いので、それを手がかりとしてパラグラフ展開をつかむことができる。

「パラグラフ整序問題」を解いてみよう

「パラグラフ整序問題」は、英文のトピックと筆者が用いている論理展開を、さまざまな手がかりを元に正しく推測できるかどうかを見る問題である。「パラグラフ整序問題」の一般的な解き方の流れを押さえた上で、実際に問題に取り組んでみよう。

Process

【1】各パラグラフのトピックをつかむ

パラグラフ展開を考える上で、各パラグラフのトピックを把握することなしには始まらない。

Point 1を参考にしながら、まずは各パラグラフのトピックと、英文中での役割を考えてみよう。選択肢となっているパラグラフについても同様の作業をするとよい。

【2】空所になっていない部分の内容から、空所にはどのような内容が入りそうかを推測する

この時に手がかりとなるのが「パラグラフ展開の代表的なパターン」である。**Point 2**を参考にしながら、各パラグラフの内容から考えて、どのような論法が用いられているかを推測する。

【3】指示語や具体例などから、パラグラフのつながりを検討する

もし選択肢中に指示語や具体例が含まれていたら、それらが受けるものが何かを考える。同じパラグラフ内になれば、その前後のパラグラフに関連する記述があるはずなので、それを手がかりにパラグラフがどのような順番になるかを決めていく。ディスコース・マーカーにも注目するとよい。

【4】最終的にすべてのパラグラフが論理的につながるよう、選択肢を当てはめていく

【1】～【3】の検討をふまえて、空所となる部分すべてに選択肢を当てはめ、論理的な展開になっているかどうかを最終確認する。